

伝統建築技術の

継承を

皆さま明けましておめでとうございませう。昨年はコロナウイルスで始まりコロナウイルスで終わった一年でした。恐ろしいのはこのウイルスのせいで人同士の接触の機会が減り、コミュニケーションがとれないことです。弊社も昨年は忘年会・社員旅行などすべてのリクレーションを中止にしました。今年はコロナウイルスが収束し、東京オリンピックが開催される事を願っております。

ご寺院の方は高齢者との接触機会も多く、一部ではお施餓鬼を中止したという話もうかがいました。これからも感染防止対策には気が抜けません。

昨年は三年がかりで工事を進めていた、静岡浅間神社様国指定重要文化財楼門の保存修理工事が無事終わりほっとしたところです。現在同じく静岡浅間神

社様の北回廊の保存修理工事も令和五年の完成を目指して工事を進めています。また、秋葉山本宮秋葉神社様の浜松市指定文化財神門の解体保存修理工事も始まりました。この神門は天保二年立川流の名工である二代目立川和四郎富昌が率いる一門が手掛け、その後、静岡浅間神社様の造営に約四〇年間に渡り携わり、今も残る見事な彫刻を残しています。二百年以上の歳月が流れ、現在両方の神社様の仕事に携わることができ、宮大工として身に余る光栄です。



白川郷の秋葉神社へ神額奉納

そして、一二月にはうれしいニュースが入ってきました。「伝統建築工匠の技・木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産登録されました。宮大工をはじめ、漆塗り、

銚金具など十七の分野での伝統技術が含まれています。

・木、草、土などの自然素材を建築空間に生かす知恵。

・周期的な保存修理を見据えた材料の採取と再利用。

・健全な建築当初の部材とやむを得ず取り替える部材との調和や一体化を
実現する高度な技術。

建築遺産とともに古代から途絶えることなく伝統を受け継ぎながら、工夫をかさねてきた伝統建築技術が世界に認められたことになりました。今回の登録によって日本の伝統建築技術と伝統建造物が守られると思います。しかしこれらを守り、次世代に受け継がれていくためには技術者の育成が不可欠であり、弊社が若手技術者も誇りを持って仕事に取り組んでおります。昨年お亡くなりになられました水野正裕老師の「金を残して下、物を残して今だ中、人生は人を残して良しとする」の教えを思い出します。そして、これからも老師の教えと初心を忘れることなく精進してまいります。

代表取締役 澤元教哲